

1 事業名 令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「大山加奈バレーボールクリニック」

2 趣 旨 大山加奈氏をメイン講師とした宿泊合宿を実施することを通して、直接体験の重要性や、
様々な人との交流の大切さを広く普及啓発するとともに、バレーボールの普及を図る。

3 期 日 令和元年12月7日（土）～12月8日（日）

4 参加者 宿泊生徒 98名, 引率者 15名 宿泊者合計 113名
日帰り生徒 2名, 大人（のべ） 96名 日帰り合計 98名

※宿泊参加人数の内訳

チーム名	生徒	引率者	宿泊合計
滝沢南中学校	15名	2名	17名
花巻北中学校	8名	1名	9名
unites	10名	2名	12名
水沢中学校	11名	2名	13名
滝沢中学校	13名	2名	14名
IWAI クラブ	10名	1名	11名
松尾・葛巻・一本木合同チーム	8名	1名	11名
遠野西中学校	8名	2名	10名
北上市立南中学校	9名	1名	10名
大野中学校	6名	1名	8名
合計	98名	15名	113名

5 共 催 盛岡大学・盛岡大学短期大学部

6 後 援 岩手県教育委員会 滝沢市教育委員会 岩手県中学校体育連盟
岩手県バレーボール協会 滝沢市バレーボール協会

7 内 容

(1) 日 程

1 2 月 7 日 （ 土 ）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
					受付	開 会 行 事	バレーボール の準備運動を 兼ねた交流 （盛岡大学 体育館）	昼 食	ゲーム形式による バレーボールクリニック① （盛岡大学体育館）		移動	テ レ シ ョ ン	夕 休 憩	大山加奈 さんとの 交流会 （交流の家 ホール）		入 浴	ミ ー テ ィ ン グ
1 2 月 8 日 （ 日 ）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		起 床 ・ 洗 面	朝 食	退 所 点 検	移動	ゲーム形式による バレーボールクリニック② （盛岡大学体育館）	閉 会 行 事										

(2) 指導者

- ・株式会社 RIGHTS. 大山 加奈 氏
- ・東レ・プレシジョン株式会社 大山 未希 氏

(3) 企画のポイント

日本代表として活躍された大山加奈氏を講師として、中学校女子チームのバレーボール技能の向上とともに、クリニックを通して他チームの選手との交流を図り、今後において互いの切磋琢磨に繋がっていくことをねらいとして事業を企画した。

対象を女子中学生に絞り、「バレーボールを学びたい参加者」としたことについては、専門的な用語や動きの理解が早く、クリニックにおいて効果的な改善が図られると考えたからである。

また、盛岡大学・盛岡大学短期大学部と共催をしたことにより、大学の体育館バレーボールコート3面で十分な活動を行うことができるようにした。更に、本施設の所在地である滝沢市のバレーボール協会の方々の全面的な協力を得ることにより、クリニックにおいて、大山氏の発言や指導法をより分かりやすく、かみ砕いて参加者に伝えることができるようにした。

当所と盛岡大学の体育館移動については、所バスを運行することにした。そうすることで、保護者の輸送が厳しいチームも無理なく参加できるようにした。

夜については、夕食後に大山加奈氏と大山未希氏との講演会と交流会を企画し、より専門的なアドバイスを聞くことで、バレーボールに対する興味関心を高められるようにした。

(4) 広報のポイント

年度当初に岩手県教育委員会をはじめ、岩手県中学校体育連盟の後援をいただき、中学校バレーボール専門部に対して、ポスター及びチラシを制作して広報を依頼した。また、所のホームページにおいて事業の実施を掲載したり、各イベント会場において広報したりした。

(5) 運営のポイント

当日の流れについては、大山氏側の進行に合わせるようにサポートを行った。1日目は、他チームとの交流を意識した内容を含み、バレーボールの基本であるオーバーハンドパスとレセプションの方法について学んだ。

夕食後はチーム毎のミーティング会場を用意し、1日目の成果と課題を振り返る時間を設定し、2日目のゲーム形式の場面で活かせるように時間を設けた。その後、交流会で大山加奈氏の講演と交流会を行った。あらかじめ各チームに質問を聞き取り、交流会の場で解決ができるよう準備した。

その交流会後には指導者と保護者だけの交流会も行い、日頃の指導についての疑問やチーム運営の悩みについて意見交換を図れるようにした。

事業全体を通しては、今後練習試合を企画していただき、互いのチームの成長が確認できるように指導者・引率者をお願いした。

8 成果とその普及

岩手県内各地から集まったチームが、バレーボールクリニックと交流会を通して技術の向上はもちろんのこと、他チームの選手とコミュニケーションを図り友情を育むことができた。各チームにおいては、作戦を考え皆で実行する活動は結束力を強くすることにも繋がった。

参加者からは、「チームの為になる助言が有り難かった。」「今まで苦手だと思っていた技がどのようにすればできるようになるかを知ることができた。」「初めての相手とのコミュニケーションを学ぶことができた。」「1つひとつの練習にどんな意図があるのか教えてもらいながらやることで意識して行えた。」などの感想がたくさん寄せられた。

今回の体験で、バレーボールへの興味が高まりやチームとしての向上はもとより、参加者同士の人間関係の広がりもあり所期の目的を十分達成できたと思う。

9 今後の課題

今回の事業は150名の募集であったが、実際には100名の参加であった。実際の活動場面を見る限り、適切な人数であったと考えられる。こうしたことから、事業の規模やどの程度の動きが想定されるかを入念に考えておく必要がある。その他には、参加チームを募集する際に、学校団体は、宿泊を伴う事業への参加が働き方改革の中で難しくなっている。今後はこの点も意識して事業の対象を考えていく必要がある。



他チームと一緒に練習する様子



スパイクの打ち方を学ぶ参加者



質問がたくさん出た交流会